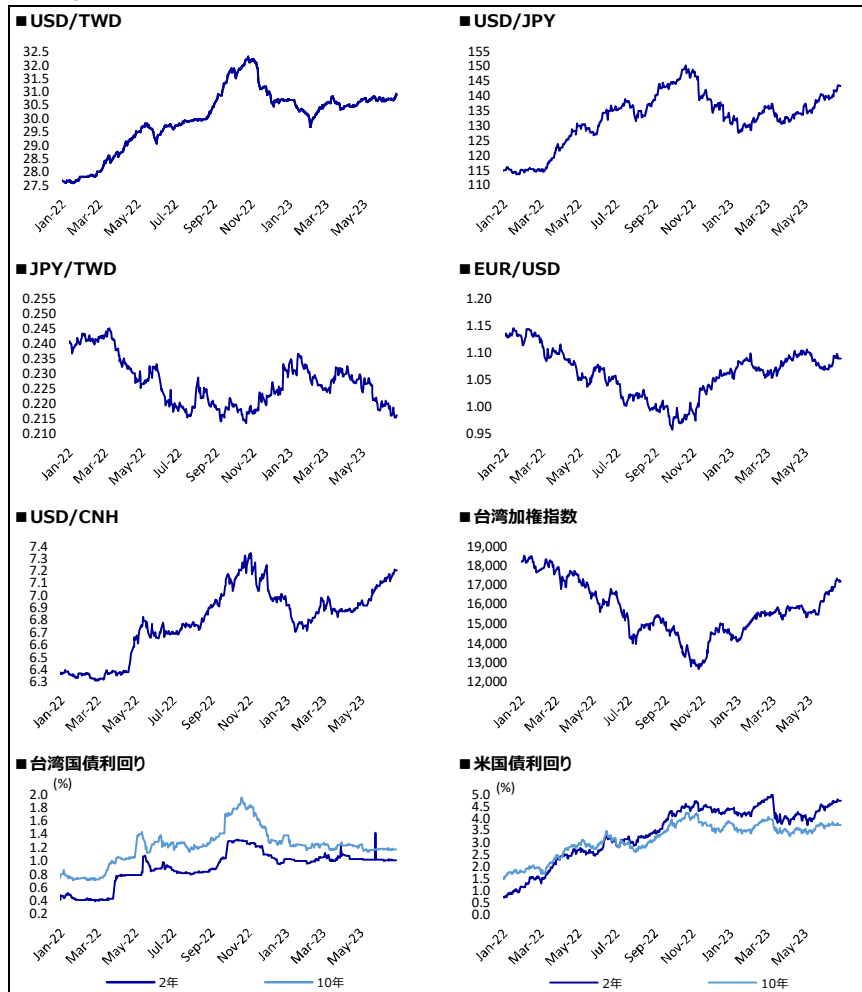


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは海外への資金流出が続き、上昇。週初6/19は30.748でオープン後、円や人民元などアジア通貨が軟調に推移する中、じり高の展開に。海外への投資資金の流出もあり、30.8台まで上昇。6/20は台湾株が軟調に推移すると外国人投資家のドル売りから30.9台まで上昇したが、この水準では輸出企業のドル売りも入り、上値を押さえた。6/21も台湾ドル安の流れは続き、30.984と約7か月ぶりの水準まで上昇。その後は台湾の連休を控え、台湾ドル売りもやや落ち着き、最終的に先週比0.6%ドル高台湾ドル安の30.920で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は19.2億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は内外金利差が意識され年初来高値を更新。週初6/19は141.78でオープン後、軟調な日本株につられて、141円台半ばまで下落。米国休場ながらも対ユーロでドルが買われたことや中国習主席と米プリンケン長官の会談で進展が見られたとする報道を受けて一時142円台をつけた。6/20は142円台で推移すると本邦閣僚からの円安けん制発言や、米金利低下を受けて141.22円まで下落した。6/21は植田日銀総裁からのハト派発言を受けて142円台に戻し、海外時間にはパウエルFRB議長の議会証言の原稿が公表されると内容がタカ派であったことから142円台前半まで上昇。しかし、パウエルFRB議長の発言内容や好調な米国債入札を受けて米金利が低下するとドル円は141円台後半に反落。6/22はノルウェー中銀やBOEが市場予想を上回る幅の利上げを決定したことから円が売られるとドル円も142円台に戻した。その後はパウマンFRB理事からのタカ派発言や米住宅関連指標が予想を上回ったことから米金利が上昇すると、ドル円は急伸し、7か月ぶりに143円台に乗せた。6/23は米金利の急低下を受けて142円台後半に下落する場面も見られたが、内外金利差が意識され円が売られると一時142.67まで上昇。その後は週末を控え小動きとなり、最終的に先週比1.3%ドル高円安の143.71で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.900-31.200
今週は海外への資金流出から上昇を見込む。四半期末の月末ながらも、台湾ドル安傾向では輸出企業がドル売りを見送る可能性もあるため、動向に注視したい。

■ USD/JPY 予想レンジ：142.00-144.50
今週は日本とその他中銀のスタンスの違いから金利差が意識された取引が続くと見込む。しかしながら、昨年9月に為替介入を実施した145円台に近づく中、上昇のスピードは緩やかになり、当局関係者の発言に警戒しながら上値を探ることになるであろう。

今週の予定

6/26 (MON)	
6/27 (TUE)	台湾5月失業率、米5月耐久財受注、米6月消費者信頼感指数、米5月新築住宅販売件数
6/28 (WED)	
6/29 (THU)	米Q1GDP確報値
6/30 (FRI)	米5月個人所得・支出、米5月PCEデフレーター

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。